



「川崎市農業振興計画」 ～豊かな「農」ある暮らしを次世代へ～



Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市



©中本竹識

川崎市 経済労働局



1 計画の策定にあたって	
(1) 計画策定の趣旨	2
(2) 計画期間	2
(3) 計画の位置付け	3
(4) 川崎市の農業の沿革、特色、必要性	4
2 これまでの本市農業施策の取組	
(1) 「育てる・創る」	8
(2) 「活かす」	11
(3) 「繋ぐ」	12
3 川崎市農業の現状と課題	
(1) 本市農業を取り巻く社会経済環境の変化	13
(2) 現状・課題など	14
4 川崎市農業振興計画の基本的な考え方	
(1) 基本目標など	22
(2) 施策の体系	23
5 施策の内容・目標となる指標	
(1) 基本方針	24
(2) 基本施策	25
(3) 成果指標	33
(4) 主なアウトプット等	34

6 本計画の推進体制について	
(1) 概要	35
7 参考資料	
(1) 用語説明	36
(2) 市内農業基本データ	41
(3) 市内農業従事者アンケート	43
(4) 委員名簿及び経過	59



1 計画の策定にあたって (1) 計画策定の趣旨 ・ (2) 計画期間

1. 本市では、平成28(2016)年2月に「川崎市農業振興計画」を策定し、農業者の生産意欲や市民の農業理解の向上を目指してきました。
2. 前計画は、概ね10年間で計画期間としてきましたが、農地・農業者の減少に加え、気候変動や農業資材の高騰、新技術の導入など社会経済環境の変化を的確に捉えて取組を進めていくため、新たな計画を策定し、課題に対応していきます。
3. 本計画の期間は、市総合計画と同様に、令和8(2026)年度から令和19(2037)年度までの12年間とします。

(1) 計画策定の趣旨

- ① 平成20(2008)年の大型農産物直売所「セレスモス（麻生店）」開設、平成24(2012)年の明治大学黒川農場開場による地域連携など、市内農業の活性化が期待される新たな動きが生じていた平成28(2016)年に「川崎市農業振興計画」を策定しました。
- ② しかしながら、この間も農地や農業者数の減少傾向は継続し、原油高や為替変動などによる農業資材の高騰のほか、温暖化等の気候変動や食に対する不安の拡大など、農業を取りまく環境が一層厳しくなっています。
- ③ こうした課題に危機感を持って対応し、持続可能な農業を実現するとともに、都市農業の持つ多面的な機能(※)を発揮することにより市民生活の豊かさを提供し続けるためには、現状や課題を踏まえた新たな計画の策定が必要です。
- ④ 本計画においては、農地・農業者数の減少が加速する恐れへの対応として、農地の保全、農業者の育成・確保を最初の4年間で重点的に取り組む施策（以下「重点施策」という。）として盛り込んでいます。

(※)農産物供給以外の農地の機能。詳細は「(4)川崎市の農業の沿革、特色、必要性」の「市農業の必要性」をご参照ください

(2) 計画期間

- ① 令和8(2026)年度から令和19(2037)年度までの12年間とします。
- ② 重点施策については4年ごとに見直しを図ります。
- ③ 社会経済環境等の変化に伴い、計画の基本目標や方向性の大幅な変更が必要となった場合には、見直しを行います。

<参考> 前川崎市農業振興計画の施策体系

基本目標

次世代に引継ぐ かわさきの「農業」
～「農」を育て・創り、活かし、繋ぐ～

施策目標

育てる・創る

都市的立地を活かした
健全な農業経営の
推進と創造

活かす

多面的な機能を有する
農地の保全・活用

繋ぐ

「農」とのふれあいによる農業への
理解促進

基本戦略

基本戦略
1

持続的・自立的な農業経営に向けた支援

基本戦略
2

農業振興地域等の活性化

基本戦略
3

多様な主体との「共創」による「新たな農業価値」の創造

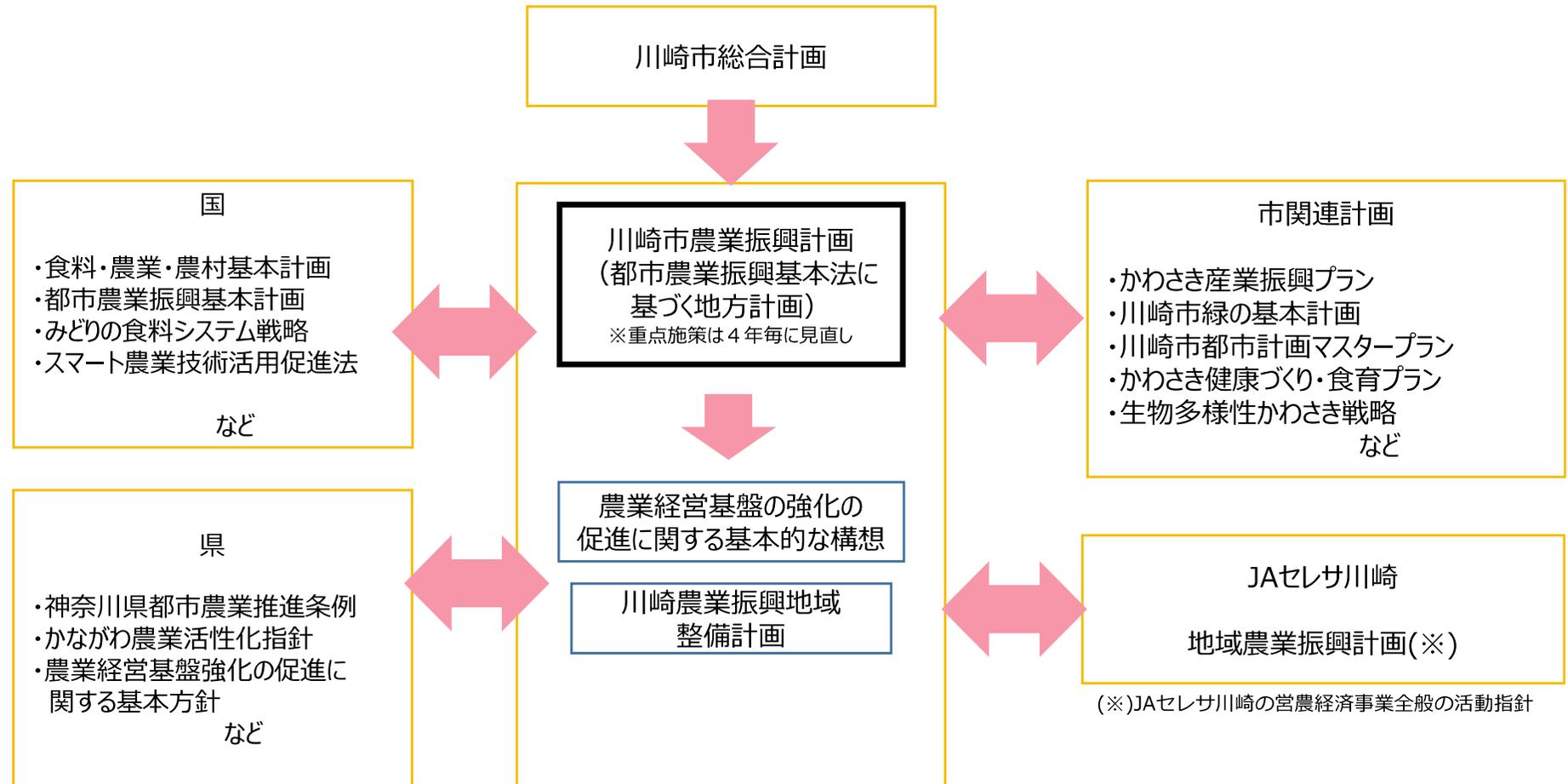
基本戦略
4

多面的機能を有する都市農地の維持・保全と活用



1 計画の策定にあたって (3) 計画の位置付け

1. 本計画は、上位計画である「川崎市総合計画」や市関連計画である「かわさき産業振興プラン」、「川崎市緑の基本計画」などと整合を図りながら、農業分野の施策の方向性と具体的な取組を定めます。
2. 平成27(2015)年4月に施行された都市農業振興基本法に基づく都市農業の振興に関する地方計画として位置付けています。
3. 計画の推進にあたっては、県の「かながわ農業活性化指針」、JAセレサ川崎の「地域農業振興計画」と連携を図ります。





1 計画の策定にあたって (4) 川崎市の農業の沿革、特色、必要性

1. 本市農業は多摩川の豊かな自然の恵み等を受けて発展してきましたが、戦後の都市化の進展等により、農地・農業者の減少が継続しています。
2. 一大消費地に近いメリットを活かし、多様な農業経営がなされており、販売方法は、消費者への直接販売が多くを占めています。

沿革

- ① 江戸時代には、多摩川の豊かな水利を活かした二ヶ領用水を開削し、約2,000haの水田が開墾されました。「多摩川梨」は、江戸時代から栽培が始まり、大正時代には関東の一大産地となりました。宮前区馬絹は、江戸時代から全国有数のハナモモの産地です。
- ② 明治時代以降、野菜の生産が増加しました。高津区久末地区では、大正5年から農産物品評会を開催し、100年以上にわたり継続されています。
- ③ 戦後の昭和30年代前半（1955～60年頃）までは多くの農地が存在していましたが、高度経済成長期以降、都市化の急速な進展により、農地や山林が商業地や宅地に転用され、生活環境が大きく変化しました。都市化の進展などによる営農環境の悪化や、相続税への対応に伴い、市内の農地・山林、農業者が減少しました。
- ④ 現在は、農業への意欲や先祖から続く農地を残していきたいとの思いを持つ農業者などの営農活動により市北西部を中心に農地等が維持されています。



多摩川梨



ハナモモ

特色

- ① 露地・施設野菜、果実、花き、畜産物など多様な農産物を生産しています。
- ② 一大消費地に近く、消費者ニーズに的確に応える農業が展開されてきた結果、栽培品目等が多様化してきました。
- ③ 生産・販売は、個別の農業者やグループで完結し、少量多品目生産での直売が多くを占めています。
- ④ なし・メロン・ぶどう・シクラメンなどは、贈答用の宅配や直売が中心です。
- ⑤ JAセレサ川崎が運営する大型農産物直売所「セレサモス」での販売や、市場への出荷、スーパー等の小売店への独自販路の開拓も盛んです。
- ⑥ 栽培指導等を行う川崎市農業技術支援センターを多摩区菅仙谷に設置しています。昭和34(1959)年に園芸技術普及農場山地果樹試験地として設置し、平成20(2008)年に現在の形に更新しました。



セレサモス麻生店 [平成20(2008)年オープン]



セレサモス宮前店 [平成27(2015)年オープン]



トマト (施設栽培)



1 計画の策定にあたって (4) 川崎市の農業の沿革、特色、必要性

1. 本市農業・農地は、農産物の供給以外にも防災や環境保全、農業の理解醸成など多面的な機能を有しており、良好な都市環境の構築や市民の生活環境の向上に貢献しています。
2. さらに、農地は本市における希少な自然環境のひとつであり、多様な生態系を支える基盤の一部として、また、ネイチャーポジティブ(※1)及びグリーンインフラ(※2)にも通ずるものとして、保全に向けた取組を進めています。

(※1)自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。自然再興

(※2)自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、緑は社会的共通資本であり、本市で暮らし、学び、働き、楽しむ全ての人々が、人間らしく生きるために必要不可欠な存在とするもの

市農業の必要性

SDGsや食の安全・安心、地産地消に関する市民意識が高まっており、本市農業・農地は、一大消費地に近接する立地の優位性を活かした新鮮な農産物の供給のほか、災害時の防災空間、環境の保全、心安らく緑地空間、農業体験などを通じたレクリエーション、市民への農業の理解醸成など多面的な機能を有しています。

本市農地の持つ多面的な機能

新鮮な農産物の供給

消費者の求める新鮮な野菜の供給や食と農に関する情報提供の役割



環境の保全

都市の緑として、雨水の保水、地下水のかん養・生物の保護等に資する役割



心安らぐ緑地空間

緑地空間を提供し、住民の生活にやすらぎや潤いをもたらす役割



災害時の防災空間

火災の延焼防止や、大震災時の一時避難場所となる役割



農業体験・交流活動の場

農業体験や直売所などを通じて、生産者と消費者の交流をもたらす役割



市民の農業への理解の醸成

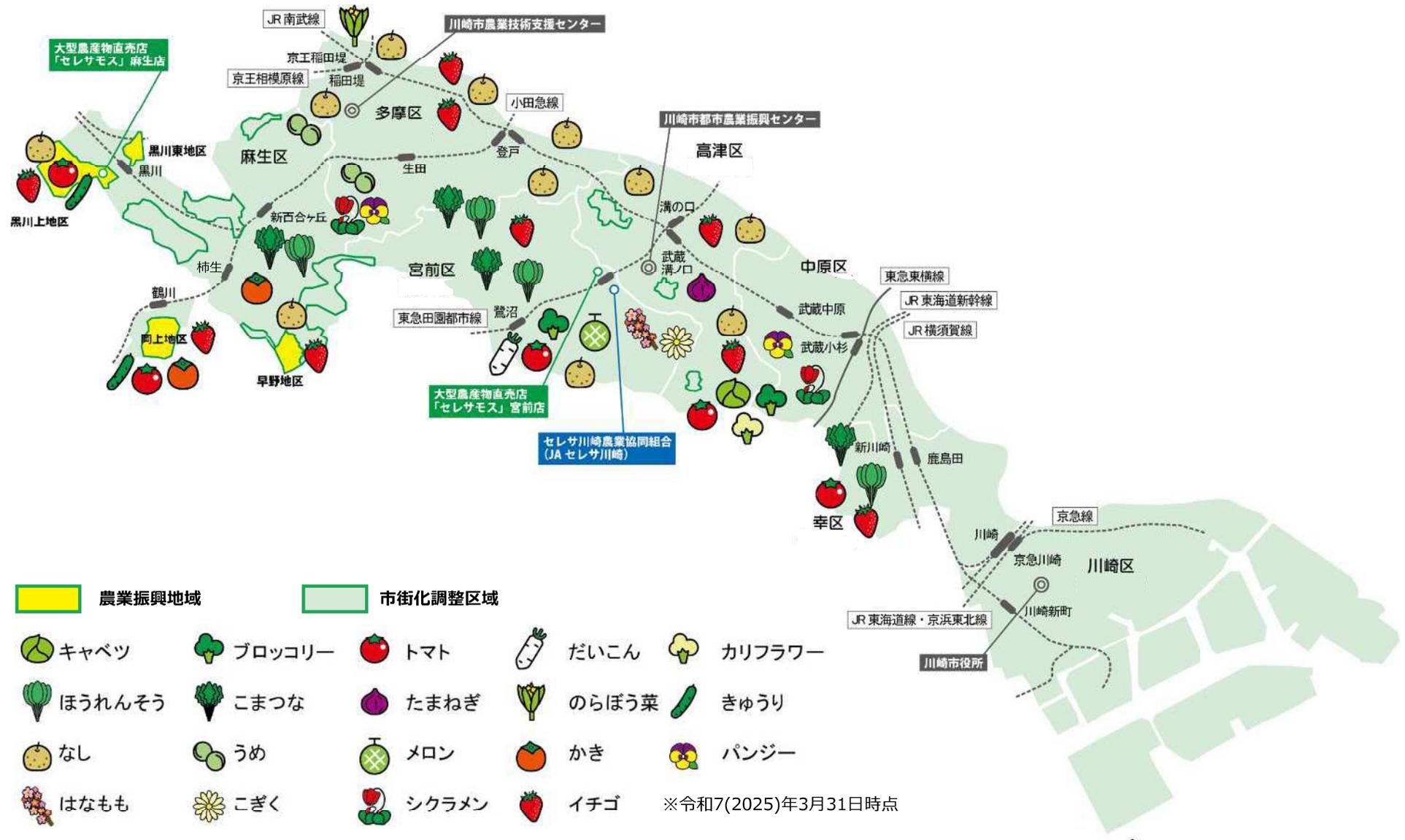
身近に存在する都市農業を通じて市民に農業への理解を醸成する役割





1 計画の策定にあたって (4) 川崎市の農業の沿革、特色、必要性

本市北西部を中心に露地野菜を主として農業が営まれており、市内の農業振興地域3地区(4か所)は全て麻生区内にあります。





1 計画の策定にあたって (4) 川崎市の農業の沿革、特色、必要性

1. 農業者の中には町内会・自治会や様々な行事などにおける地域の担い手となる方もいるなど、行政の重要なパートナーとしても欠かせない存在です。
2. 古くは江戸時代から先祖代々事業承継している農業者も存在し、地域を支えています。
3. 多面的な機能を有する農地は、農業者の責任感とたゆまない努力によって維持されています。

農業者が担う様々な役割

町内会・自治会での活動など

地域で長く生活していることから、町内会・自治会や消防団等で活動したり、役職を担う方も存在します。また、草刈りや山道の管理などといった地域の環境の維持も担っています。



地域行事

農業者の協力の下、農地を活用した芋掘り体験など様々な地域行事が催されています。



観光農園

一部の農園では、観光農園として、農作物の収穫体験を事業として行っており、本市の貴重な観光資源の一つとなっています。



**Fruitful!
カワサキ**

かわさき観光農園

「川崎市 観光農園」
で検索してみてね!

【田んぼとどんど焼き】

どんど焼きとは、正月飾りや書き初めなどを燃やし、1年間の健康や家内安全を祈願する小正月の行事です。

高く積み上げた塔状にしたやぐらを組む必要があることから、麻生区等の一部の地域では、農業者の協力のもと、田んぼを開催場所として行事が行われています。